

This newspaper helps you to think about your tomorrow.

「モルゲン」はドイツ語で
“明日”という意味です。

MORGEN

1

January 2017
No.177

10代の

Teenage Atlas

地図帳

小市慢太郎

さん

(俳優)



写真：西場誠志

こいち まんたろう 1969年、大阪府生まれ。同志社大学卒業。学生時代よりマキノノゾミ主宰の劇団M.O.P.に所属し、2010年の解散までほぼすべての公演に参加する。2011年、NHK朝の連続テレビ小説「てっぺん」に出演し高い評価を得る。その他のテレビ作品に『下町ロケット』（11年/WOWOW）、『クロコーチ』（13年/TBS）、『精霊の守り人 season2』（17年/NHK）など多数。映画では『るろうに剣心 京都大火編/伝説の最後編』（14年）、『劇場霊』（15年）などのほか、新作『惑う』『東京ウィンドオーケストラ』『ゾウを撫でる』の公開も控える。

シリーズ【プロの仕事】

「フォト・ジャーナリスト」カンボジアと共に

愛護センターに収容された犬たちの運命は？(16)

保護活動に大きな影響を及ぼした「ウメの死」 清松 素子



保護する犬を 選ぶこわさ

犬を愛護センターから引き出す時、私は犬舎の中にいる犬達を見比べて選んだことがありません。大きさや健康状態、気質など私の手に負える条件を提示して、犬の選別はセンターの職員さんにお任せしていました。なぜなら自分が選ばなかった犬がセンターに残り、殺処分されてしまうことが怖かったからです。そうすると他の保護団体が手を出さない和犬系雑種が私のところにくることが多くなってきました。

しかしその時はたまたまセンターには純血の若い柴犬の雄が2頭しかおらず「どちらにしますか？」と聞かれて困った私は、とりあえず1頭ずつ触れてみますといいながらも、内心では先に犬舎から出てきた犬を保護すると決めていました。そのくらい自分で選ぶことを怖れていました。

そうしてわが家に来て来たのがウメです。和犬系雑種に親しみ、どうやら自分と和犬とは相性が良いと思い始めていた私にとって、和犬の代表格のような柴犬はすぐ仲良くなれるだろうと考えていました。

しかしウメはそれまでの雑種犬とは少し違っていました。警戒心が強く、感情表現が下手なことなど雑種犬との共通点もありましたが、警戒する対象が思いがけないものだったり、感情の流れが想定外だったり、意外な所で大胆だったりと行動を予測しにくいところがありました。柴犬好きに言わせると、それこそこの犬種に特有の気質で、慣れればとても面白く愛おしいものとのこと。それまでの経験では理解できない部分もありましたが、素直で優しい性格のウメとは時間と共に順調に距離を縮め、家庭犬の所作を教え、

普段の生活で困るようなことはほとんどなくなりまし。5か月の間に私はウメがかわいくしょうがなくなっていましたし、ウメの方もよく懐いてくれました。

それでも一つだけ、とても気を使っていたことがあります。それは逃走の防止です。初めの内は帰りたい場所があるのか、窓や玄関の開閉の際を常に狙って飛び出そうとしていましたし、わが家に慣れてからも、外の世界に飛び出してみたいという欲求が感じられました。臆病で家族以外には決して慣れない犬が一度外に出たら、捕まえることは容易ではありません。私は家屋の逃走防止策、散歩中の逃走対策を万全にし、それでも万が一逸走した場合のため名札のついた首輪が抜けられないようにするなど、できる限りのことをしていました。

譲渡先に決まったお宅は先住犬4頭に猫もいて、犬飼いの大ベテランでした。ただ和犬は初めてということだったので、性質は洋犬とはかなり異なること、そして逃走の危険があることをしつこく何度も話し、散歩の仕方、家具やケージの配置変更もお願いしました。

先方はすべて快く承諾し、ウメのお届けに伺った時にはケージなど必要なものが私の希望通りに置かれ、逃走防止策は完璧



でした。譲渡後には電話で定期的にウメの近況を伝えてくれました。先住犬と寄り添って寝ていること、猫と仲良く遊んでいること、お母さんに甘えていること、特別にお父さんとの絆が強く、自営業の職場に一緒に通っていることなどを嬉しそうに話してくれました。ウメは家族に愛され、楽しく幸せに暮らしていました。

突然の訃報が届いて

しかし譲渡から7か月後、突然の訃報が届きました。職場から逸走し交通事故にあって亡くなったのです。職場の方の逸走対策は完璧ではなく、また7か月経って気の緩みもあったのかもしれません。ウメはお父さんの目の前でドアをすり抜け、追いかけるお父さんを何度か振り返りながら走り去ったそうです。そして逃走から1時間もしないうちに車に轢かれました。

いろいろな奇跡が重なってウメの遺体は家に帰り、私も最後に見当たらず、ウメは今にも起き上がり「遊ぼうよ」と私を誘ってくれそうでした。お父さんはひどく落ち込んだ様子で「自分がウメを殺した。本当に申し訳ありません」と何度も繰り返し、号泣していました。

ウメとの突然の別れは私にとって非常に辛いものでしたが、譲渡先のご家族の心痛は私のそれを上回るものだということがわかりました。そしてほんの少しの不注意が招いた死であるこ



とも、お父さんが自分をひどく責めていることもわかりました。しかし私はどうしても許すことは出来ませんでした。小さな男の子が最後にどんなに怖い思いをして、痛い目にあって亡くなったのかと想像すると、悲しみと怒りが尽きることはありませんでした。

センターから出所し、ちょうど1年後にウメは亡くなりました。あの時センターにいたもう1頭の柴犬はどうしているだろうかと考えることがあります。またセンターでは生き延びたウメの命が、たった1年で散ってしまっただけ理由を今でも考えています。私にもその原因があります。自分でちゃんと触れて手に負える犬かどうか確認しなかつたこと、よく理解できないまま譲渡先を選び巣立させてしまったこと、譲渡後にも逸走の注意をし続けるべきだったことなど、考え始めたらきりがなく、取り返しのつかない大失敗に今でも胸が引き裂かれるような気持ちになります。

ウメの死はその後の私の保護活動にも大きく影響を及ぼしました。

第9回 「鉄鋼スラグ製品と海と森」 アートコンテスト

海と森と生命のつながりを表現してください。

鉄鋼製造の過程で生産される副産物「鉄鋼スラグ」を原料で作られた製品が、陸に海に様々なフィールドで活躍しています。

もともとは路盤材などの建設資材として使われていましたが、近年は海藻やサンゴの再生に効果を発揮し、沿岸環境の改善に役立つエコ製品として注目を集めています。

また、東日本大震災の被災地では、復興資材としてインフラ整備に利用されています。

鉄鋼スラグ協会では、そんな鉄鋼スラグ製品のことをより多くの人に知っていただくことを目的に、2008年より「鉄鋼スラグ製品と海と森」と題したアートコンテストを実施しています。

誰でも気軽にご参加いただけるコンテストです。

まずは鉄鋼スラグ協会のウェブサイト (<http://www.slg.jp/>) で鉄鋼スラグ製品のことを少しだけ勉強してください。

そのうえで海や山や川や森、そして私たちが暮らす町や都会を舞台に、たくさんの生命が輝き、共存している様子を表現してください。

皆さまの力作をお待ちしています。

<http://www.slg.jp/>

【応募要項】

■募集作品：海や山や川や森、そして私たちが暮らす町や都会を舞台に、様々な生命が生き生きと輝き、共存している様子を表現してください。

■応募方法：絵画、イラスト、写真（プリント）のいずれかの方法で表現してください。絵画、イラスト作品の大きさはA3サイズに収まるもの（サイズ厳守）。写真は四つ切りサイズ以内のプリント。応募に際しては、鉄鋼スラグ協会のウェブサイト (<http://www.slg.jp/>) のアートコンテストのページより応募用紙を印刷し、そこに必要事項を明記のうえ、作品とともに鉄鋼スラグ協会宛に郵送してください。郵送以外の応募方法はありませぬ。また、以下の各項に関してご了承の上ご応募ください。

*応募作品の返却はいたしかねます。*応募作品の著作権、使用权などの諸権利は鉄鋼スラグ協会に帰属するものとします。*審査に関するお問い合わせにはお応えしかねます。

■応募資格：不問

■賞：大人の部(高校生以上)最優秀賞：1点/賞金10万円
子供の部(中学生以下)最優秀賞：1点/5万円
優秀賞(大人、子供に関わらず)：6点/各3万円
団体賞(10点以上のご応募をいただいた学校や絵画教室などの団体が対象)：2団体/各3万円相当の図書カード

■応募締切：2017年1月31日(火)消印有効

■発表：2017年3月予定
(鉄鋼スラグ協会のサイト上で発表)

■審査委員：中村征夫(水中写真家)、鉄鋼スラグ協会調査広報委員会委員

■応募先・お問い合わせ先：鉄鋼スラグ協会 アートコンテスト「MORGEN」係
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館5階 TEL.03-5643-6016

審査委員長は中村征夫さん




